琉球大学学術リポジトリ

太上感応篇大意

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2021-09-08 キーワード (Ja): 所収コレクション：琉球大学附属図書館宮良殿内文庫, 宮良殿内（みやらどぅんち） キーワード (En): In Collection: The Miyara-Dounchi Collection (University of the Ryukyus Library) 作成者: 宮良筑登之當親（筆写）, 2009/6/5 16:40 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/6184

太上感應篇大意

松尾氏
常祿

太上感應篇大意并序

夫惟

太上感應篇は福州侯官縣の丁相と
いへる人の纂輯せられし敬信録より
見へたり昔者文勢ありし人皆此讀
敬信録等は世の人を教るに親切なる
書也併文小にして綴ハ一統の人々のゆへ

易く曉り易き様よ有せしと雖も
なましも公私繁多に紛ら来筆ハ紙
且歳并ゟ送りぬ爰に友人濟氏記纂
筑山之観斎匠に保錦纔神の事を
見せしむ即ちこれを鑑るに衣服を整へ
敬んで拝閲するに所載の文粉て心を
正すの條件を附する書紀中

盛衰篇は其一條ふ載せられ禍是人を
勸る為様よ設られ物よ依あり世の
人物て現生禍いと然へし福ハ之を
得せしめん天公盛衰の賞罰
窮て切なとを述られぬるや見んことしらるゝん
急躁と驚動す爪竜と之為に機次し
善心沖発し清めしあ

女工御仁念は補肇試よりしてされぬを覚へし
之儀は我当あつかり即て文の志進感し
業と浙めり之肇整女達にあらず
あしは総部肖武者写女乃耳文
合也し安かしめん為に事あれ者所し
句の前後を浙重し前程有其さとくし有文格
言葉かしき風雅なる様なれ婦女人の男

小さき綾めをしてすへ人易き疑ひの俗ありて
書をかきらたまれ也してく人浅近卑陋
なかるに経んし職人等は太宗家之極り
深く嘆し彼等便に繁衍し為し
太工は給肩御仁應小さまし書かれ程にまく
殺とならん成にけられ成事覚麻為
書を國也夫大学は初学徳小人の門也

程夫子係ちうに爲ハ大本儒徳门小論く
遊道也と眞者ハ大聖なる賢をとゝるに分かれ
畢きちら遠てふ所儀さちらとこに點
德门ハり志係の者善遊道ちがをはしめ
考して恵ふ神人とをすおハだ一人鬚眉の
曠野よ教を出ていふてゝし家庭と探り
得る事水支して放きかふ麁しと係天ま

筆ハ紙留畢

附

文昌帝君陰隲文并寳訓文
関聖帝君覺世眞經ハ大意ハ次ニ記せり
道光貳拾壹年辛丑初冬善樵逸癡翁也樹徳
書於讓觀方盧元讃而序之

太上ハ感應篇の大意

太上御せられしハ人間の吉凶禍福ハ皆各
自分ら招きよせるの也善悪の報ハいとも
早き事物の影の形にそふごとし人の悪きハ
付そふ其の罪の軽重ふ仍て天より算數を減せらる
或ハ凶事ふハ財銭損し困窮ハ身ら或ハ
水火盗賊の難ふ逢ひハ或ハ人ふに悪まれ

我朝にいたりても悪鬼災難をのがし
天皇此命期(めいご)を縮(ちぢ)めて死せしむ又二位
神慮にある霊夢を蒙りて尊の姿を工に往復
あり此人々に仕へしめハ事ハ後に記し又三月
神にあり毎月庚申の日に上天し其の仕
よろしハ常に是を記して文書にし大の神に月々
廿九日三千日天に申しもし家内人数の仕ろハ

寿ハ減少出るハいたる仕ろハ常ハ
代数を縮めなさき命数を縮むるハ仕
まつりハ常に此大小数百般をあつめ庚申を
長命を願ふハ此仕ろハ其命数を
続くる殊にかくある為種々数多人哉ハ
中一の尸ハ体をめぐり月々云東方の
為解ありて中義理人に

ゆるしハ我と孝ハ孫の為ハ心得常に
進んて行へし義理人情に背きそむかんと
思ひ見ぬ人の不見不聞處にても悪
不為者は無候徳の心ハ積重りて自ら
上天の御罰を蒙り天命の果報消尽し
家に在てハ主君に忠父母に孝を尽し
兄弟ハ睦ましく事を致し夫婦ハ和順す

妻ハ夫に知し妻は何篇夫の下知に従ひ
子孫を愛し尊長を恭敬し下部の者に慈悲の
心にて召使へハ上下とも和睦して言葉にも出さず
それ〳〵に其職分を勤精を出し
忝くも上ハ公方を尊敬し上役人をも尊ひ同席ハ其支配
礼儀を正し年寄ハ敬ひ幼ハ慈しみ
志ある人を慈悲し中にも親方より

高役の志ふかき人ハ常に文人ハなんとなき
おもふにハと見ゆるものはかし広き人の
仕様し事ハ我見ゆるうてはさいわうなれ
人の為にハ達せる我ハ人の危き事
なりんとむかふ我助け人の幸ハ我済を
見うなれハよろ幸ハ我済る様よきりわ
嬉しく思ハ人の為幸に達せしを

見ゆうしてハまうる高幸に達する様よ病苦
こハし人の高足の幸ハ我いうより苛待を
誇りていふるハ我か高上の親貴ハ我文
高成様まき役て誇りさうる人を戒め
或ハ勧奨此小事に達して申ハ心を選ぶ人塵
なきも銀を存するこころの高義を訪ハす
人とる高様悪物なき我記る春よるへ我ハ

寡し人は多かるやうにいふ人を悪む
施し物を共にして其餘を通ふ事なくして
然るに憐みて總て事を正しうす
義理の道有る人は品の節を持つの情を
引き立て公に此義を敗らず我が身を正しう
人の心を察し能く其謙りに善人
なる世の人々も之に従ひ勧みて随ひ

之を寵み悲むも之を獲るや新たに
せしむる事の萬の美顔事も
福禄長寿の蘂草を求むる事の飾り
有すんや孝を盡くして父母舅姑に達き
兄弟にはよく夫婦の中を和らげ孫子に至る
義を立てし其情を持ちて勝に随し
宗親は姪甥に婦を取りて親類の中を

謙んし祖親の霊位を敬ひ火乃神を
崇信せ玉ハ酒色に耽(ふけ)り狂乱(えんそう)忿争闘有り
立て勤向怠る者ハ縁暗(くらう)ニ悔まし上級に逆(さかひ)
同輩を侮り下級乃者ハ我わしくお狎ハし
聖賢を毀(そし)り有徳の人を侮り人の兄貴
親族乃中我にハ隔(へだて)あり賢能(けんのう)の人を云
嫉(そね)ミ人の讒をなし我押ハ邑の為ニ清法

所ハ我かくし人の手柄と云を己か手柄とし
其身の仕擢(ふど)事あれハ我孝かしくハ人の
手に仕渡したることハ何事を擬(なぞら)へ云なし
算なる我ミづく去衰ニ成我溺し人せん
寄るとみてく貪しめ殺人害と欲し
云しハ我狎侍(あくてい)なる謝暴(かうがう)しき人ハ
きらひ其まゝ論(つつ)いハ氣ニ入ル事ハ我求めて謂を

託て命をかへりみず主あるを求めずして財銭
貪りの悪人とだましてより邪慾を
主人とし雑情よこしまを成ハ賄賂ハ銭交
賞罰をも違ハ未来を忠をも由なし
世あるものを悪邪のかくし推さ悪神
帝きを云ひ親しき銭の誅殊をも
親み人の顔をみてあかるをみて淫慾

新人の容貌をみて驚きいそしむ里
其の閑説事をいひ人の縁組を取り
冨ふに依て謗て人を呑縦を頼んて人を陥
威をもて銭を奪ひ色を安んせんとし人を
損じ色を盗んとし人の財ハ銭はいやまし
其の物ハ銭借し富貴居してあつかひ淫
物を好人のまゝき物に称へしはいはゆるに

物をも求て善をとき怨み悪き人の
ことの成にて求め人の物を掠(かすめ)取り
なやまし人を侵(をか)し物を奪(うば)ひ人を乞しめ人を
悩(うら)むもまた行 贔屓(ひいき)を佛さ内へ色変かる
善悪の様にも縁ハ浙江軍闘を好て
従霊しく人の善物化をも害し人の思ふ
事為(かまん)しもるをい以て邪怪(じやくわい)にならずを

他の人の銭をぬすみ斗升秤尺(ますはかりたくと)を小さくし
利得を欲ゆき縦をするを含める人に与へし
人を擲(なぐ)りて人の殺すを含めるを疾(にくみ)
殺し井門ののろ嘘 咒詛(まじない)竈にかけ
誹謗すて銭貨怨み罵 祈風霊を志ち
罵(のゝし)りも此に向ひ鼻を吹き唾(つばき)を吐(はき)
悪き悪號及小役し流掌を炊みく竈

虹霓を指さし又日月星辰を併さき
竈に對し吟詠哭泣怨怒し又竈火に香を焚き
穢たる薪木を燒無辜の鳥の羽背を焼
逸楽度に過て福を求め人の怨を生して
禽獣を殺し草木ハ猥に伐り藪を焼き蟄を驚
射獵し逃走るに獣を追捕ハ眠る鳥を
驚かし禽獣の巣ハ破覆し諸虫を

穴を塞き虫類の蟄に随て其命
誅し命数を害ひ殺を好み死を
喜ぶくらひの者ハ其跡ハ子孫絶て家亡
財物を掠取者ハ其妻子を殺ぎ家に
及ぶ或ハ水火盗賊疾病等の禍に
逢て夫人の善ハ報ひ来り福を受る事を
とも悪人の報ひハ必ず記して絶

其悪なるは人之をしらず神之を知給ふ
亦おのれ悪事をなしても自らはぢて
後悔して諸悪莫作衆善奉行ハ必
吉慶を得べし是所謂禍を転して
福となすなり又吉人ハ善を語り
善を視り善を思ひ一日に三善あり
三年に及べハ天必之に福祥を降し給ふ

凶人ハ悪を語り悪を視り悪を思ひて一日に
三悪あり三年に及んで天必之に禍を
降し給ふ何ぞ悪を捨善を取て勉めて
これを行ざらんや

一 感応篇ハ天地の律書也只浅世の人を
喜しむるための虚文とみることなかれ之を
読んに先静なる處に端しく坐し

當家の人々ハ法度ノ篇中ニ戒(いましめ)の
後ちの人ハ虚誕軽易(けいやう)を戒むるへきハ肝要にて
閑書ハ邪悪の習染(かうぞめ)自然ニ消へ
申候し

一 前々之人申伝ふ事ハ善悪の事を能々弁へ
感悪の事毫髪(がうはつ)も違(たが)へすして追来有
のことなれハ後々の人ハ先を思ひやる也

事にて慎むへきいと慎むへき事也
性質の上の気侭に常に偏り偏り
後悔をもとも親り自ら是を習染
事ハ段々と是なれハ一旦ハ水の如く
觀るの勤来ハ先ハ消せんと其の継
ぎなる是を親しく慎み大に色
[illegible]なる果報ある事へし大也

此篇ハ賤き人のためよ迷ふ信心の鉄盤

書くを擬ハ切りハ唇も廣くしてゐ

此の修しよれ報ひて後よ書

かくかく所し

一 小善の報ハいそく大善の報ハおそし遅

報ハ勝て遅き報ハ速し今人善を

信ふる志も又なき者は修しき

との〻し後ハ小善ハ纔ニ関りし不

仕合よくも悪き報を知らざるしと云々

善行の志をんと打棄たる是迷ふ

報を歎きぬる事にわや嘆しく

とのたる善悪の報ハ勸め戒め

照らして明らかなり

上帝ハ神道也此篇一人ニ修する事ハ

十首は南山十八人に偈つかはさるゝ百首と
南山大士人に偈つかはさる然るに南
禅然が能に世に広がる八百首に南
けり揚論して世の人に正論者は
善導が好みて其の欲は自らかなふ
好む周茂といふ人蓮花を愛す
病して端の端を遁かれ君子と云

人云く蓮花は仙人と成るにし
花を公よりかの福は限りある也

一 懐壌の汪源といふ人幼童の時より蓮花
を好んで誦読し奮起して遂に縁への
志有其功漆に七丈昇て蓮浮丹楽寿
内福いはるゝとおもひけるかし

一 揚州にて呉大雅といふ人子は蓮生ること

甚遅て多方小利取にれ是なり
なし一人感應篇を遵て之を篤く生すれは
福は是を得るの祭也と即ち得り之を遵
ふるを喜し諸消し此篇に合所の
善事は積り悪念は改むべきさもの
之を改め六七年中に子生まれ是なの
篇は有信じて霊験し也すべく

一

板をもて善事を記を時天啓丁卯年也
山西汾州府介休縣の靳永寶と云人
年將に感延る多数し遂に孫をまうけ
取りし仕一子は生しも祖親の後嗣
主張は感應篇百を極行して形なき
行く事を行じは悪漏を轉じは寧らんと
仍て年六歳子をして一男子を生しり

知るべし

一 仙居縣王某といふ人一婦子を娩生せざるが
中歳に病死せし父哀みに堪ずして棺を發し
崇符稿行をおし人々に服しめ其いしては
其しは妻の腹に殺て生せ殺へとて疑し
後よこそ妻某の處にいたりて子を抱き論し
羨を見して懐妊し婦子を娩生せさる

報號今に三年に如く東かに時符を成常
信したらはまことに感あるへし

一 南省の進士洗珠といふ人妻懐胎して
重病にかゝり此符を人に貰ひ服し滿
好しむる切渡に行て平産母子安全
其功いふべし

一 越國の郡清之といふ人此符を書て為に

まなこえ君の説ふ此篇よ云所ハ衆の窓
篇章のまとふ所の衆智能所へよと
自ら巻頭に書し給ふ事ハ行て世の人
古清書と為給ふなる多ら奴之下り
行て清之太守ふのなる君ハ目之つく
於て所の眼病に参せしてるよう
一 慈籍奈三といふ人の此篇ハ後給ふし

牧代ハ清ハ音楽行て紗人よ寄い
咽喉の病ハ年余したるよし
一 新安太守時すといふ人多病なりしが
此篇を披行し世よ広めたり御遍り
行て方體康泰安泰よ成たるよし
一 陳錦衣碧松といふ人妻なら人を添い
物ハ残情入遠ハ残ハ弱し広し此年篇を

鼓子亭んにし神に禱り萬ぐ報じて文あれ
彦くは逆賊の難をまぬかれ残壊の文字
許庭会といふ人も能く洪範を毎誦し
逆賊の災いを免かれけるとかや
一 揚州城の程翁といふ人何某洪範并文昌帝君
陰騭文を篤く信じて行ひいまだ終に救度
災難を免れ大富家と成けるとかや

一 西蜀の李昌齢といふ人感應篇を詳(つまびらか)に
註釋(ちうしやく)し世の人を勧めしより福祉(さいはひ)身に備り
てし子孫まで位高く家を興しけり
東越海門の周先生かつて王龍渓
先生の門に遊びて学ぶ講席に侍りき之
やくも偕人のなりし處にて感應篇を閲し
まり力強く勧めて行ひしは殊に感應篇

韓湘は根より枝にうつり唐し世を勧め済度し
仍て一旦不の養時し幻識き時の大儒に
なりぬと儒の聖賢の書に教へ経を言ひ
道の仙術の書をうちよ給ふ修行する事にて給
こゝろさしの者物法をさゝ也へ今も張紫陽の
いふし人善行を積陰徳を修ふ行ひて
邪了んは邪見陰とならぬをもとゝもへ今にふ

志ある人は修し此篇読てまり
行はせん人も有るへしと也

文昌帝君陰騭文乃大意

帝君仰せられけるは吾家十七代士大夫となりしに未だ曾て下民を虐き痛めず下役を恵みて救ひし人の難有ば救ひ人の急なる時ハ人の孤を憫み人の過ちをゆるし広く陰騭を行ひ天より故に人能も我のごとく心を持て

福ハ善を帯ひ行ふ家にあつまるといへに
訓て(ぞくに)いふむかし于公といふ人獄吏たりし時
正道より行ひて陰徳ふかゝりしかハ子孫大官
にのぼり竇氏人を救ひて富貴栄ハ久し
蟻を救ふて状元となり蛇を埋んて
宰相となりたる例しあまたなれハ福ハかの
因縁慶の人と譲をはかるの地を

積善積ハ清きむ風しけ陰徳を行ひ
しものゝ為物のあるまゝの善ハ我家の
むかしハ無窮のゆへ天下代て
慈祥化ハ我家の國の為民をあらし
遠慮し忠し雙親小孝し兄弟を敬
し朋友にハ信實し或ハ真人の斗星
なりを評し或ハ佛神ハ我身し續をまし

罰天地君親の恩を忘るゝものを破て慮りて殺す佛仏仙の教を云
をおそるゝは恩を知れる人也潤げの恩を海山と
忠ならん危を救ひ羅みくれる権は
私なし亮を顕し貪は情に家
含んで共に恵を深く潤へるもの
圓山厨よ識共にして死皆成落ちて殺したるを
葬り我が家の宅に観成厳を思ひ肌厳ふ

隣里を賑し斗斛秤度法にて渡す
将又あ米ぐ貧しき奴婢を使ふ
寛也我々年貢割も恵みて人に
為す不成書物を読む人に
経文を粗末に廃堂寺院を剣除し
病者をよく薬を共に渇したる
蒸共に盛鍛の教

制しがたき事をかく放逸（はういつ）命を
備ふ事を嫌ふは是れ非常に蟻虫を淫
殺さず火を付ちらし山林を焼き城郭を
思ひて往来の人の後をかれし濫なる
遣ふ人をとかうし罪を見る戯れはおる
事自ら危ぶは人の定相をはかる自ら
井のかは穀をこし自ら定機を棄なる事

自ら人の時節を譲るなくしなる事も
人の殺親を誘ひ自ら他人の妻を
犯す事あられ人の命を事きる事を止ら
事なき人を恨みを壊る事自ら
人の縁組をさい壊ること自れ親の恩を
作る者の親子兄弟中を乱る和
なくしむかし自ら嫌ひて作て老成の

人を貶んとする事なかれ只賢人を恃んで
閑居の時も行を慎てよき事をまね善人と
交はり勤み進みて渡りの助となし
悪人をはなれ遠ざけて後は其災を成を
防ぐべし・いはんや忠義の道を隠し貴賤ある経
並て廣く好ほしきを以て仙境にかゝれ
路に遊ぶに麟の居る所を荊棘あるを掃ひ除き

通路の悪しきは往来の難儀となるゆへ津渡の
橋を造り割を埋て人の難を救ひ
財は施して以の善事を行んとするを
助けしめ總ての事天理に隨ひ家業
怠なく人の助となりて身を守り給
平常むりしれ聖賢の道を見んことを
おもはしむるの處を後悔を起へ密義なり

常く八衆の難みと融して如様に
堪(?)む處しめて遂る所の諸の恵ハ我が子
孫ハ諸善経行て思ひ膽(?)倚(?)千里ある
事なく善神守りて守護してたやすき
誘ハ吉自ら身にそなはる禁(?)ハ兇(?)禍に
及ハ百福駢臻（へいしん）り千祥雲のごとく集る
誠に是陰隲を以ての行ひの中にて清集る也

一 唐の李登と云人ハ文才秀(?)十八歳進士科に首
まだ(?)後科第十九歳(?)にて宰相となる(?)蔵(?)
百龍(?)と進んで命数も十九歳(?)元で(?)十二の宿(?)禍の
任よのとを悟りて陰徳の人の姦事に
満ちを知し亦人の毒(?)我(?)隣し記との
後(?)無人と文見まほ(?)関(?)係を編(?)さ思ひ(?)
妻(?)其の(?)人にえ(?)罪(?)を救(?)と李(?)の

昔と閨縫に自ら織機て死せるといふ也
上
蜀西と云所に大飢饉死人多し富氏羅容
といふ者義戯開て飢人を救ひ其義士許
容といふ人家財を尽して飢人を救ひ金銀
その外貧窮(きうきう)明の貧民鉄義我施天より以て
祐(たすけ)けるとぞ　帝感賞せしれ
上帝風師に詔有て羅容が家に穀を吹敷く

蓄(たくはへ)所の穀物凡五千石余揚(まきあげ)蜀を
降せしれ許容に於て村中其飢人をみな
施し命をたすけ羅容がたくはへなる
一粒も用ゐずしてなほ村人
上帝叡感ありて恩恵を施し許容が為に我
蔵は羅が光に逢て今は何時も戸たり
蜀帝右の次第を聞召し許容を寵愛し

猜山倍夜小命也ら羅塞自ら和梅くち
纔を記せらるべし
一 進士孫樵と云人　帝座の邊に通ふ
時暗夜に天日旁落の命を得る即ち
帝座に祈けるに忽ち火の光現られ
急にとり上く金ゆたとい滅消の後
又山の林麓をとりて火を積て雷えてよし

樵後祈ら　帝座両成止て中ら此四角
霽あらそら樵是を威し文を絶て参ら
益清しみよふべし
一 黄巣といふもの中国に路入り積りあるに
僖宗教道んともに黄巣を遅といふ成
進く進りしむ
僖宗馬数紀を知て賊を追て来らんとく

帝君自ら白驢に乗て
路次を擁護て剣南より行まゐらす
僖宗　帝君廟に幸して大牢の礼をなし
給ふ何卒沙陀首にて黄巣賊を討従へと
祈りまうして巣賊敗殺されて崇
祀らし益篤せられけり
一　武林の龔燁といふ人順治十一年甲午五月

家に居て善を贈して一銭をとらす
帝君陰騭文を梓に刻て施こしけるが我妻め
此の秋妻孕を懐し忽血崩衝命己に危
四更付分忽眠に催し了孫の夢あり
帝君前に臨て端坐し給ひ二童侍り
鶴百併藥を携もちて一鶴庭に向
清穢を衝んて去　帝君膺実に流

逍遥して且らく夢を握く即安産する
産後婦人妻孫産に付ても用ゆれて安全を
得るなり障又は眼疾痛狂ならば風疾
痛みありし數年を經たる不明なるが三日
齋戒要法清く吹日想觀と光明風漏し
ゆみ止る事なかりし
一 金剛の戒志をもつて幼年より神明を崇し八

編ども順渡八年の頃羅病を時に年八十一
忽ち重處に諸々陰竭文茶を服
續頼せんとあり數日無式大病年金になら
ずして
一 山陰の今弁先と云人富貴をまて熟病好
朽幕して飲食して人事ハ飯省ぬ
至父 帝戸神に云今弁先の病

瘖也然所即ち瘖瘂支列ち唐の疥癩
疾者ありて以て豈能免る事なり
帝釈を信じ一人菩薩網破の者
帝釈へ帰依して命危を病危うして
救ひを求むれば救わんと　帝釈語りて
寿一紀を増し世に命し菩薩即ち
其病を救て目出度繁栄したりし

一　直隷省小華姓と云者有年十六才にて
瘋癩（ふうらい）の病ひありて痛み甚しかりし
此者ハ頼む所なく帝釈を頼みては我悪病
を治さん（おなけ）と侍に療を起請して華厳を勤ぬれハ聖速に
痛ハ少く祈けるに小豁ち快念平癒
意のことく快まちかりし

右ハ霊験紀を考へ書しは岸清と云者本院

同類之事取略之

文昌帝君寳訓の大意

人は天地の正しき気をうけて生れ亦は親祖父の精気をうけて人と成ぬるものなれは此恩のおもいはかる事天地のひろきたかきかことし深くして世の人は子孫の為に心を尽し力を労し物をも惜しむ親祖父の為には

文をよみし心は経を千巻を読たる
道ハいかなるをも縁ハ結ぶとも喜ぶ
帰意と思ひけん人たに識人の法を
申されハ我等を許し給ひて死後葬送
結構にし住せしめ候て同類ともに
其中に思ひよらずに聞かなしぬへく人を縁の
物語り小野の山寺より経をよみとも

また庵のうちへふみ入て見れバふしぎやな
子供よりも一つのつまにかくれて有しが
其らが中に落葉を積て出しに身の飛ぶ
原をみな身のたけの大きなるに縁の
かたちにも似たることく答へ絶て
竈に龍の跡を続きて一人後ぞ
見て候ぞ帰る姿を見ては忘却して天

詠まぬ逆ハ仏法を尊ひ不申　皇天震怒して
その子孫の罪をも得ハ関聞羅早紀みす
累ハ残りして首の怨むる事ある帰れ
賢雅にあらすとも見捨遊ばさる親祖父
婦嫉の心を以て養育を厭ふ人のる念
情をもは人の不孝を為し損ふ其人は
首尾よく其の人を推し奉り

事なく忠愛をもなさん
皇天の守り給はく生を
継し親の富貴家業を子の心へ親祖
父の墳墓を緒構ハ家緒ハすなり此
急にならで天罰の身ハ事多かる也
道に經るを云森嚴朧月　此帝も
陰ごとの神慮に進むべし　人の此墳墓

見えずして世を荒し業を横に壊るゝものあり是は
子孫の姓名を絶し親祖父の恥辱を
罪にして思ふさまに殺し又は強盗は闘諍
又は夜盗は盗賊は子孫病氣夭亡盛衰盗賊
水火害の災難は非業戰死けんくわに負け後嗣を
絶る種の事なども因に應じて饑寒窮困に
陥るなどかゝる保護純權を離縁は多く紀り

世を悪滅と思ひしは却て天理に循ひ根本を
害ふなる也よ　皇天の教に福禄安
楽を善者に与へ子孫代々繁栄子孫長久
又まゝ修し命ある人は何程悪しき業を為
毒にも病に死にても禍を逃れ其の
中に戦死の事ども免れて命を運と
云ても天命に依る軍陣の罪

天神ら背き給ふ事也是ハ当世の罰にてあるべし
行先の善行ハしるけれども武家康寧
寿きハ互に我福ハ是を得て中集と知れ
是命すなはち運なりと得て甚根ぜ流
歓祖父母厚めぐまれ仍て天神より
之後褒賞し給へ面て思ふと七世の
親祖父一ふりし妻人せざれバ其子孫まで

とし継ぐ所の墳墓水に浸し蛇蝎穴に
穿ち或ハ乞食となりて風雨に濡て命耕柳
積人に事を省みず死せしめ白骨を露
縁ハ後に偏ます縁の無ものを頼む
様にならぬ之後息をふかくして身をし後前と
難と云ハ親祖父母之後之世に至る人
そのうしろ後闘之衰微災難常

道をかり愚昧の情に随て佛に帰せ貴ふ
後世の安楽を求めて現世平天死
闕後の子の遊ひ殺也を扱ふ中や泡
後ハ佛になる事ハしかも怠ると思きり
わかて討にと徳の文を荒壊れかるとよく
佛の教へでも儒の稿ハ甚すよもへやまれ
たそのつとし頭巣を歴し亦我師前を

板ある利世に継されハ大極聴明の
すくる大戒がくしてせて世に萬さし誇りし也
思ふ物いなれんや難かもかすんや
○
関聖帝君覚世真経乃大徳
天地をうやまひ敬ハ鬼神と祭をつく三
親祖父の嫌ふ事ハ無我にして父母の
孝ハ百行の大義ちと定めかるなり

清らかなる容儀正しきは富貴也
兄弟睦まじく夫婦和睦し
子孫を愛して親類縁者と
交り一門親しく[illegible]余念無く
村中丁寧に隣合よく人とまじはり
[illegible]縁者にも[illegible]の道に
何事も遠慮し[illegible]

近付親しみ思ひき人ハなるべく遠ざけ給ふべし
兎角[illegible]は貧者のものを助け
親しく[illegible]細かに[illegible]候者ハ
万事に成[illegible]書物文章を広め[illegible]
[illegible]しく憲法守り人よ業[illegible]其[illegible]
第一を其ハ道[illegible]
[illegible]し人の[illegible]

人の仕様しき事を見て乳をもとむ
膿り無慙の情を起し悪心盛にて
よろづの事に心を武成と教へしもの
憐み蟻虫の類をも殺さぬ一切衆生
信心よく行ひ慈悲なる人は常に見る
鬼神もよろこび守りてつねに福あり
知らぬ事をば信じて災害をまぬかる事

自然と清く病（やまい）事なく音曲をよろこび
来る也人は当世無を添ふ風し悪思
人まゐる善事とよき人の妻女を犯
しさまの縁組をも断りつゝ他の家を
譲りいその（ぎの）枝縁わたる嫉そしりの害あり
訴事をといふ人を損しめるを浮し
家を破り身をつゝしまず華美を好む

倹約なき人ハ其盛衰を恃んで人を
押ひしがんとするゆへ貪さまを縦ん
人の骨肉親友中といへども又人をん
患ひ難儀ハ乎邪慳の事成ハ思ふゆへ
すると続ひいさかひハ事となりし
姦盗邪淫の事など是も大ならぬ
報して絶を然るに風あし罵り聖賢よ

あまねく神を穢して其性を悪
人情に違ふ故悪ハ終ゆへ行暮ぬといふ所の
行ハ手多の一思事となきはそのつる
此事水火盗賊疾病死罪ハ損害と雖
を敗り身命をもつて家を安穏ならしむ
為しもなき難ハ只一身を亡ぼす事なき
難ハ心を穢し後神明の咎を蒙る

ふかく毫末も悪業ハ善悪両途に依るべし
禍の微善ハ消へ福祥来り悪ハ消行
へば禍見へ出たる所の諸人へいたくまて
るりん事をしらず悪流をあつめよりいよ
あしくまた善を積事ハ業ハ結ばれ
鰹の鑓のたねハ貧銭斯の形をニツあるべし
経信誦し修持するたへ凡諸の病ふを

消さ依ていはくがいと聚めるハ欲求なれバまさと
得ずして貧銭求めずして事を得ずしてなん
富貴功名をほしくハ城郭ハ祈男をハ
善のことく萬禍消え陰千祥雲の
集るがごとくしかしむ然に無福ひの報ひハ惟
貴事を勤めぬて招く越ともまのかる
言葉ある毒を雑のみ形し　惟編

善人と成るも是れ迷ふ心の衆生
常に経を行じて厭志悩を書かまと
一 関中の劉人者といふ人背に瘡を煩ひ
療治をすれどもしるしなかりし聖
帝者の真経を授け経を読む事に功能ありとて
頼みしに三日がうちに即ち平愈し寿
百歳まで保ちしとかや

一 宜興の周廷昌といふ人父の為に普門品を
読誦し真経千張を書写して功徳を
作して父七十歳より寿命延まかりし
法別の家に補といふ人呼頭に寛にて
持経など誦し文殊経利て人にも進めし
功徳は十年めくりて学業進みて経を参り
孫卿正卿に経を渡して成長するとかや

一晋の帛遠といふ人疾病を好んて経を讀誦
祈願すれとも癒ざりしに此経八百巻
書写へ人にふかくすゝめ仍て声を警き
美しく快全成得ける也

一隋の章の朝奉といふ人関聖帝君の法
大いなる福を逢し速に当経を施
利を世を勧しての功を夢と見て此経

行ぜし後果して帝の所へ宰を
施て有いは悔きとり空中より此
経一巻残縁し放人と頼て利を
施して後出家を得るとし

一河南の陳逵といふ人常に残積して之を受
科第し後此経を利らて速に
之をよかよりし

一　王昇昔ハ京人明合の法縁の同道談
貴ハかり彼なる處ハ職のふ事させて
語ヲ設んて民聖常安を祈願
宜しく願のことし叶ハさるかるへし

此一巻ハ世の人を教訓にも切なる書也公家武家場
親方俗拝せられ寄せ其不限都鄙民共老若
男女の為ふの事常なる民ふかい常ニ流行
あかつきをも忘るへん御の数十枚ニ来宮れ
此あまた数流行しかくらんしつれも忘れ万一も
手積度るさ諸国村の紙也笑紙也常行す
も拙き文字の則しカ氣ふ仕し板を誤ゑ給へ
此ふそれも書様と是於て所ニ京至らす見るへし
寶暦八年戊寅十二月吉旦

若狭町村松氏

田谷瀬敬之

帯華宗經

判之写

田谷瀬寛之

宏昌宗相

此一巻先蔵豊之九年己未大筆先後之為

上國之対之月宮瑞久山観方様ゟ頂戴下

以筆

松蔵氏大筆先

宮亭緑登之當観

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

太上感應篇大意

附文昌帝君陰騭文
同寶訓又關聖帝君
覺世眞經之大意[illegible]